⑥　養護一般

（解答は，すべて解答用紙に記入すること）

1　「児童生徒等の健康診断マニュアル　平成27年度改訂」（平成27年８月　日本学校保健会）に示されている内容について，次の（１）～（３）に答えなさい。

（１）　身長検査の方法について，次の①～⑤に適する語句を書きなさい。

・　測定の際には，被検査者は必ず裸足で行う。
・　被検査者を身長計の踏み台に上がらせ，両かかとをよくつけて直立させる。
・　尺柱には，両かかと，（　①　），背の一部が触れた状態とする。正面から見ると，身体の（　②　）と尺柱が重なっていなければならない。両上肢は（　③　）に垂れさせる。頭部を正位（（　④　））に保たせるため，軽く（　⑤　）を引かせる。

（２）　一般的には男子は10歳過ぎから，女子では８歳過ぎから急激に身長の伸びがみられる。この現象名を書きなさい。

（３）　次の式から算出される肥満度と肥満度による肥満・やせの判定について，下の①，②に答えなさい。

$$肥満度＝\frac{（\ a\ ）体重（kg）－身長別（\ b\ ）体重（kg）}{身長別（\ b\ ）体重（kg）}\times 100（\%）$$

①　a，bに適する語句を書きなさい。

②　次の表は，肥満度に基づく判定を示したものである。c～gにあてはまる数字を下のア～ソから１つずつ選び，その記号を書きなさい。

	やせ傾向		普通	肥満傾向		
	（　c　）%以下			（　d　）%以上		
判定	高度やせ	やせ		軽度肥満	中等度肥満	高度肥満
肥満度	（　e　）% 以下	（　e　）% 超 （　c　）% 以下	（　c　）% 超～ （　d　）% 未満	（　d　）% 以上 （　f　）% 未満	（　f　）% 以上 （　g　）% 未満	（　g　）% 以上

表

ア　－10	イ　－20	ウ　－30	エ　－40	オ　－50
カ　－60	キ　－70	ク　＋10	ケ　＋20	コ　＋30
サ　＋40	シ　＋50	ス　＋60	セ　＋70	ソ　0

⑥　養護一般

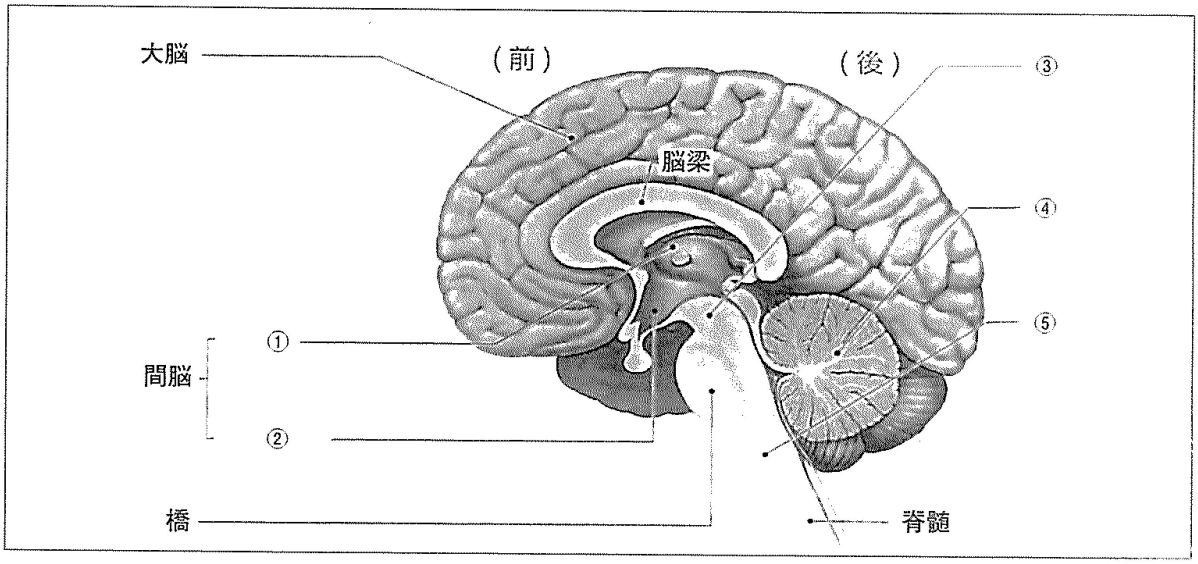
（解答は，すべて解答用紙に記入すること）

2　次の文は，学校保健安全法施行規則第９条に規定されている健康診断の事後措置の基準である。①～⑩にあてはまる語句を書きなさい。

- 疾病の（　①　）処置を行うこと。
- 必要な（　②　）を受けるよう指示すること。
- 必要な検査，（　③　）等を受けるよう指示すること。
- （　④　）のため必要な期間学校において学習しないよう指導すること。
- 特別支援学級への（　⑤　）について指導及び助言を行うこと。
- 学習又は運動・作業の（　⑥　），停止，変更等を行うこと。
- 修学旅行，対外運動競技等への参加を（　⑦　）すること。
- 机又は腰掛の調整，（　⑧　）の変更及び学級の（　⑨　）の適正を図ること。
- その他発育，健康状態等に応じて適当な（　⑩　）を行うこと。

3　次の（１），（２）に答えなさい。

（１）　次の図は，右脳の断面を表したものである。①～⑤の名称を漢字で書き，その説明として最も適するものを下のａ～ｉから１つずつ選び，その記号を書きなさい。



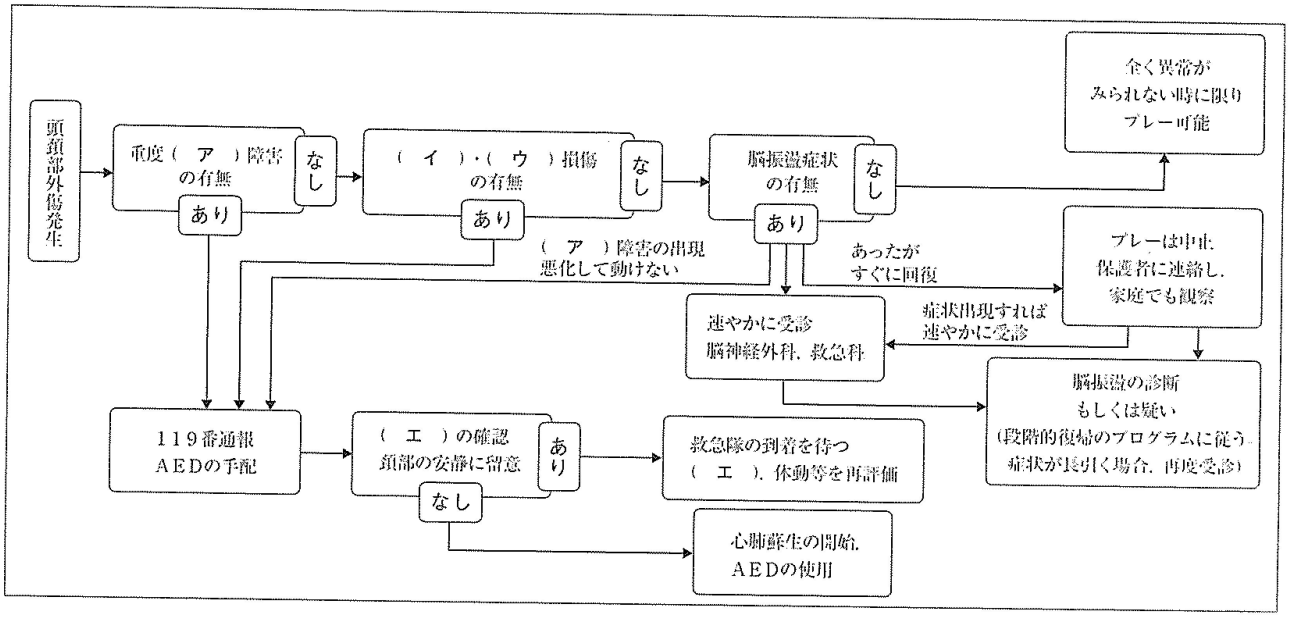
図

ａ　脊髄反射の中枢。
ｂ　感覚に関わる介在ニューロンの中継点（嗅覚を除く）。
ｃ　運動の調節中枢。平衡を保つ中枢。
ｄ　各種の感覚中枢。各種の随意運動の中枢。
ｅ　記憶の形成（原皮質の海馬）。情動・欲求などの中枢。
ｆ　自律神経系の中枢。体温，水分，血糖濃度などの調節中枢。
ｇ　呼吸運動，心臓の拍動を調節する中枢。消化管の運動，唾液や涙の分泌を調節する中枢。
ｈ　記憶・判断・創造などの高度な精神作用の中枢。
ｉ　姿勢を保つ中枢。眼球の反射中枢。瞳孔を調節する中枢。

⑥　養護一般

（解答は，すべて解答用紙に記入すること）

（２）　次の図は，「スポーツ事故対応ハンドブック」（令和２年12月　独立行政法人日本スポーツ振興センター）に示されている頭頚部外傷への対応のフローチャートである。下の①，②に答えなさい。



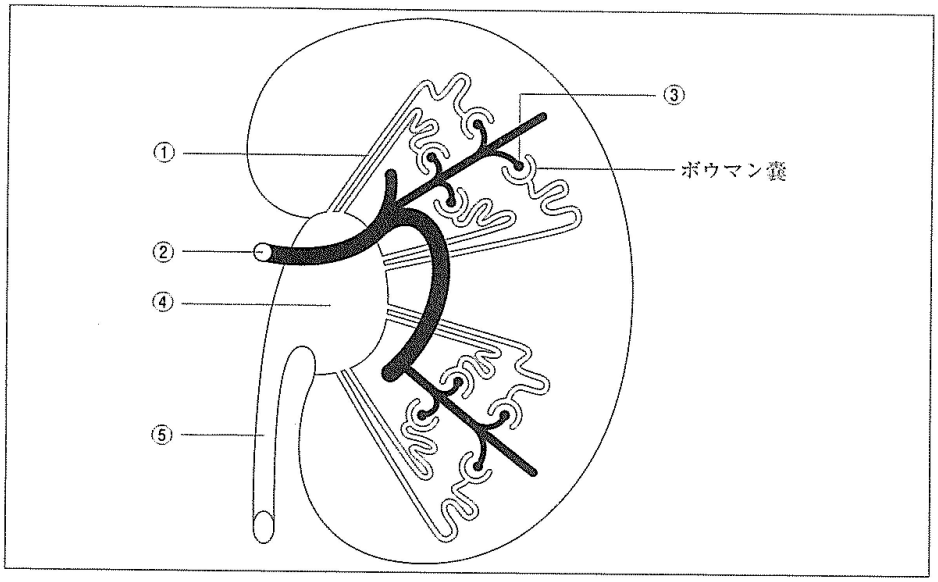
図

①　ア～エに適する語句を書きなさい。

②　脳振盪の症状を，「頭痛」・「吐き気」・「めまい」以外に３つ書きなさい。

4　次の（１），（２）に答えなさい。

（１）　次の図は，腎臓の構造を表したものである。①～⑤の名称を漢字で書きなさい。



図

（２）　尿検査を実施する際に正確な結果を出すために，採尿する上で注意すべきことを２つ書きなさい。

⑥　養護一般

（解答は，すべて解答用紙に記入すること）

5　次の（1），（2）に答えなさい。

（1）　学校保健安全法に規定されている保健指導について，①～④にあてはまる語句を書きなさい。

> 第９条　養護教諭その他の職員は，相互に連携して，（　①　）又は児童生徒等の（　②　）の日常的な観察により，児童生徒等の心身の状況を把握し，健康上の問題があると認めるときは，遅滞なく，当該児童生徒等に対して必要な指導を行うとともに，必要に応じ，その（　③　）（学校教育法第16条に規定する（　③　）をいう。第24条及び第30条において同じ。）に対して必要な（　④　）を行うものとする。

（2）　養護教諭の行う保健指導に関する次の事例を読んで，下の①～③に答えなさい。

> 事例１　小学６年生の男子児童から，健康診断における視力検査の際に，「席替えで前から後方へ変わったら黒板の字が見えにくい」という訴えがあった。問診したところ，スマートフォン等（A）でのオンラインゲームを長時間行っていることがわかったため，保健指導を行った。
>
> 事例２　午前中に体調不良を訴えて来室することが多い，中学３年生の男子生徒。学級担任から，遅刻が多く，朝の健康観察で元気がなく顔色が優れない様子であることについて，養護教諭に相談があった。
>
> 本人に日頃の食事の状況を尋ねたところ，朝は食欲がなく，朝食を摂らずに学校へ来ることが多いことがわかった。そこで，「朝食の大切さを理解できる。」（B），「朝食を摂って登校することができる。」（C）の２つの保健指導の目標を立てて指導することとした。

①　下線部Ａについて，スマートフォンやタブレット等の端末利用に当たっての指導内容を２つ書きなさい。

②　下線部Ｂの保健指導の目標達成のための主な指導内容について書きなさい。

③　下線部Ｃの保健指導の目標達成のための主な指導内容について書きなさい。

6　次の児童生徒の心身の健康問題に関する疾病について，（1）の名称を日本語で書きなさい。また，（2）～（4）で説明しているものを何というか，その名称を書きなさい。

（1）　ＰＭＳ

（2）　発熱，頭痛，嘔吐を主症状とする疾患である。抗菌薬の発達した現在においても，発症した場合は後遺症や死の危険性がある。飛沫感染するもので，学校において流行を広げる可能性が高い疾病であることから，第二種感染症に追加されている。

（3）　立ちくらみ失神，朝起き不良，倦怠感，動悸，頭痛などの症状を伴い，思春期に好発する自律神経機能不全の一つである。近年の研究によって重症では自律神経による循環調節（特に下半身，脳への血流低下）が障害され日常生活が著しく損なわれ，長期に及ぶ不登校状態や引きこもりをまねき，学校生活やその後の社会復帰に大きな支障となることがわかった。

（4）　スポーツ外傷等の後に，起立性頭痛（立位によって増強する頭痛）などの頭痛，頚部痛，めまい，倦怠，不眠，記憶障害など様々な症状を呈する疾患である。事故後の後遺症として通常の学校生活を送ることに支障が生じているにもかかわらず，まわりの人から単に怠慢である等の批判を受け，十分な理解を得られなかったことなどの事例があるとの指摘もなされている。教職員等の理解を深めるとともに，個々の児童生徒等の心身の状態に応じ適切に対応することが重要である。治療法には，ブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）がある。

⑥　養護一般

（解答は，すべて解答用紙に記入すること）

7　次の表は，「性同一性障害や性的指向・性自認に係る，児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」（平成 28 年４月　文部科学省）に示されている内容である。性同一性障害に係る児童生徒に対する支援の事例について，①～⑨に適する語句を書きなさい。

項目	学校における支援の事例
服装	自認する性別の制服・衣服や，（　①　）の着用を認める。
髪型	標準より（　②　）髪型を一定の範囲で認める（戸籍上男性）。
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める。
トイレ	（　③　）・多目的トイレの利用を認める。
呼称の工夫	校内文書（通知表を含む。）を児童生徒が希望する呼称で記す。 自認する性別として（　④　）上扱う。
授業	体育又は保健体育において（　⑤　）を設定する。
水泳	（　⑥　）が隠れる水着の着用を認める（戸籍上男性）。 補習として別日に実施，又は（　⑦　）提出で代替する。
運動部の活動	自認する性別に係る活動への参加を認める。
修学旅行等	（　⑧　）の使用を認める。 （　⑨　）時間をずらす。

表

8　「学校における薬品管理マニュアル」（平成 21 年７月　日本学校保健会）に示されている一般用医薬品及び医療用医薬品の取扱いについて，次の（１），（２）に答えなさい。

（１）　次の文は，学校に一般用医薬品を置く場合の保管・管理上の注意点について述べたものの一部である。①～④に適する語句を書きなさい。

・　一般用医薬品には使用期限の表示がありますが，その期限は（　①　）の期限です。
・　一般用医薬品の保管は，（　②　）を避け，温度・湿度に注意し，使用状況に応じ（　③　）して保管してください。
・　一般用医薬品管理簿は，あくまでも一般用医薬品の管理に使用するもので，使用した児童生徒や使用量等については，（　④　）などに記録しておくことが大切です。

（２）　次の文は，学校における医療用医薬品の使用について述べたものである。下の①～③に答えなさい。

教職員が児童生徒に医療用医薬品を使用する行為は，医行為に当たるので行うことはできません。しかし，児童生徒が，３つの条件（A）を満たしており，事前の保護者の具体的な依頼に基づき，医師の処方を受け，あらかじめ（　a　）等により授与された医薬品について，医師又は歯科医師の処方及び薬剤師の（　b　）の上であれば医薬品の使用（B）の（　c　）が可能です。

①　a～cに適する語句を書きなさい。

②　下線部Aについて，「医師又は看護職員による連続的な容態の経過観察が必要ではないこと」以外の２つを簡潔に書きなさい。

③　下線部Bについて，「医師法第 17 条，歯科医師法第 17 条及び保健師助産師看護師法第 31 条の解釈について（通知）」（平成 17 年７月　厚生労働省医政局長通知）に示されている「医行為ではないと考えられるもの」を「皮膚への軟膏の塗布」以外に３つ書きなさい。

⑥　養護一般

（解答は，すべて解答用紙に記入すること）

9 次の表は，「精神疾患に関する指導参考資料　～新学習指導要領に基づくこれからの高等学校保健体育の学習～」（令和３年３月　日本学校保健会）に示されているものである。主な精神疾患について①～⑧に適する語句を書きなさい。

疾患名	特徴的な症状
（　①　）	・気分の落ち込み，ほとんど全ての活動へのやる気の喪失が主な症状である。 ・気分の落ち込みは，言葉で表現するよりも，元気のなさやイライラ，不機嫌な様子として表出されることがある。やる気の喪失は，それまで楽しみだったことに対して興味を失ってしまい，むしろ苦痛を感じるような状態である。 ・ほぼ毎日の不眠または（　②　）がある。
（　③　）	・「悪口が聞こえてくる」などの幻覚（幻聴）や「いつも見張られている」といった妄想が特徴的な症状である。普段はあるはずの意欲や生き生きとした感情が乏しくなる場合もある。 ・前兆が現れる（　④　）期があり，その時期には軽い幻覚や妄想の症状が見られる。
不安症	・本人や身内が病気になるのではないか，などの恐怖が様々な心配事や不吉な予感とともに，動悸・発汗・震えなどの身体の症状が伴うことがある。人前で過剰に緊張したり，避けたり，赤面や手の震えを訴える人もいる。 ・日常の活動を妨げたり，長期化したり，その症状自体が不安を起こしたりするような場合には，専門家の支援を求めたい。
	【（　⑤　）不安症】 ・仲間との雑談などのやりとり，飲食の様子を見られる，人前で話す等に対する著しい恐怖と不安がある。 ・著しい恐怖と不安を見せることで，否定的な評価を受けることになると恐れる。
	【（　⑥　）症】 ・突然，激しい恐怖や強烈な不快感の高まりが数分以内でピークに達する発作が繰り返される。 ・発作時は，動悸・心拍数の急増，発汗，身震いや手足の震え，息切れ感や息苦しさ，窒息感，めまい感や気が遠くなる感じ，吐き気や腹痛などが生じる。 ・発作について持続的な懸念や心配がある。
（　⑦　）	・体型と体重に対する極端なこだわりや，体重増加への極度の恐怖を持つのが特徴である。 ・ごくわずかしか食べない，あるいは大量に食べて吐くを繰り返す，下剤などの乱用や過度な運動を続けるといった食行動上のトラブルが見られる。 ・女性に多いが，男性にも一定数みられる。
	【神経性やせ症】 ・食事や栄養の摂取制限によって体重減少し，年齢や性別などから期待される体重を下回る。 ・体重増加や肥満への強い恐怖がある。 ・自身の低体重の深刻さに対する認識の欠如。
	【神経性（　⑧　）症】 ・短期間・短時間に，一般的には考えられないほどの量を食べる。 ・食べることを自分でコントロールできないという感覚。 ・体重が増えることを防ぐために代償行動をとる。

表

校種	養護教諭	受験番号	

⑥　養護一般　　解答例

1

（１）各１点 ５点	①	臀部	②	正中線	③	体側				
	④	眼耳水平位	⑤	顎						
（２）１点	思春期成長促進					現象				
（３）各１点 ７点	①	a	実測		b	標準				
	②	c	イ		d	ケ		e	ウ	
		f	コ		g	シ				

2

①	予防	②	医療	③	予防接種
④	療養	⑤	編入	⑥	軽減
⑦	制限	⑧	座席	⑨	編制
⑩	保健指導				

各１点
１０点

3

（１）名称 各２点 記号 各１点 １５点	①	名称	視床			記号	b
	②	名称	視床下部			記号	f
	③	名称	中脳			記号	i
	④	名称	小脳			記号	c
	⑤	名称	延髄			記号	g
（２）各１点 ７点	①	ア	意識	イ	頚髄	ウ	頚椎
		エ	呼吸	※イ，ウは順不同			
	②	（例）ものが二重に見える。					
		（例）時・場所・人が正確に分からない。打撲前後のことを覚えていない。					
		（例）混乱や興奮状態。普段と違う行動パターン。ふらつき。　などから３つ					

校種	養護教諭	受験番号	

⑥　養護一般　　解答例

4

（１） 各２点 １０点	①	尿細管	②	腎動脈	③	糸球体
	④	腎盂	⑤	尿管		
（２） 各１点 ２点	（例）・ビタミンＣ（アスコルビン酸）を含むサプリメントやビタミン剤などは，検査前日の朝から摂取を控える。 ・検査前日は夜間に及ぶ激しい運動は控える。					
	・就寝直前にトイレに行って完全に排尿する。 ・朝一番の早朝第一尿（安静時の尿）を採取する。 ・出始めの尿は捨て，途中の尿（中間尿）を採取する。 ・月経時の場合は，可能であれば延期（別日に）する。　などから２つ					

5

（１） 各１点 ４点	①	健康相談	②	健康状態	③	保護者
	④	助言				
（２） ４点	① 各1点 ２点	（例）・タブレットを使うときは姿勢よく，タブレットを見るときは目から 30cm 以上離して使う。 ・30 分に１回はタブレットの画面から目を離して，20 秒以上遠くを見る。				
		・少なくとも寝る１時間前からデジタル機器の利用を控える。 ・時間を決めて遠くを見たり，目が乾かないようにまばたきをしたりして，自分の目を大切にする。 ・○分使ったら１回中断する，学校のタブレットは学習に関係のないことに使わないなど，学校や家庭のルールを守って使う。　などから２つ				
	② １点	（例）・朝，朝食を食べることにより，胃や腸が刺激を受け，眠っていた体が目を覚まし，体温が上がって活動しやすくなるとともに，腸の働きが活発になり便通がよくなることを理解できるよう指導する。 ・朝食を摂らずに運動すると，エネルギー不足で集中できないため，けがをしやすくなったり体調不良を起こしたりしやすいため危険であることを理解できるよう指導する。 ・脳もエネルギーを消費する臓器であるため，朝食の摂取状況が午前中の学習にも影響を及ぼすことを理解できるよう指導する。　など				
	③ １点	（例）・朝食を摂る時間を確保できるよう生活リズムに気を付ける必要があることを知らせる。 ・担任等と連携し，本人が生活リズムの振り返り，改善するための取組を継続できるよう，励まし支援する。 ・自分でできる簡単な調理について指導する。　など				

6

（１）	月経前症候群
（２）	髄膜炎菌性髄膜炎
（３）	起立性調節障害（ＯＤも可）
（４）	脳脊髄液減少症

各１点
４点

校種	養護教諭	受験番号	

⑥　養護一般　　解答例

7

①	体操着	②	長い	③	職員トイレ
④	名簿	⑤	別メニュー	⑥	上半身
⑦	レポート	⑧	１人部屋	⑨	入浴

各１点
９点

8

（１） 各１点 ４点	①	開封前		②	直射日光	③	施錠
	④	保健日誌					
（２） １０点	① 各1点 ３点	a	薬袋	b	服薬指導	c	介助
	② 各2点 ４点	患者の容態が安定していること					
		医薬品の使用に関して専門的配慮が必要でないこと					
	③ 各1点 ３点	湿布薬の貼付，点眼薬の点眼，一包化された内服薬の内服					
		肛門からの坐薬の挿入，鼻腔粘膜への薬剤噴霧					
		上記５つから３つ					

9

①	うつ病	②	過眠	③	統合失調症
④	リスク	⑤	社交	⑥	パニック
⑦	摂食障害	⑧	過食（大食も可）		

各１点
８点